



**LOVE LOVE
LOVE LOVE
EXHIBITION**

2019 → 2020



愛することは、 つくること

愛、それは自分を取り戻し、夢中になり、他人を慈しみ、祈り、つくりあげるもの。この時代、いちばん必要とされているのは、「愛」ではないでしょうか。

2020年夏に開催するLOVE LOVE LOVE LOVE 展は、そんな「愛」がテーマの展覧会。感覚に従い、トライアンドエラーを経て、それぞれの表現にたどり着いた作品たち。それらを通して、愛と創作の深いつながりをひもといていきます。2019年夏に開催するイベントでは、考え中・準備中のあれこれを、まるごとシェアします。トークイベントやワークショップ、作品展示など、もりだくさん。もちろん、これはスタート地点です。2020年までの1年間、みんなで楽しく愛をもみもみしながら、展覧会をつくっていきます。

さあ、LOVE LOVE LOVE LOVE 展と一緒に盛り上げていきましょう!

ごあいさつ

「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダンダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は、日本財団が設立当初から続けている障害者支援の取り組みから生まれたプロジェクトとして、誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、「障害者と芸術文化」の領域を起点に事業展開を行っています。

現在、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、全国で育まれている障害のある方のアート活動が、かつて無いほどの脚光を浴びています。私たちは、2017年度・2018年度に、多くの鑑賞者にひらかれたアクセシブルな場とプログラムづくり、双方向の学びを大切にされたプロセスを重視し、企画展「ミュージアム・オブ・トゥギャザー」等を開催しました。そして、2020年夏、より多くの「まだ接点のない人々」にもアクセスいただくために、お台場の船の科学館を会場に、大規模なアート展「LOVE LOVE LOVE LOVE 展」を開催します。そして、アートを通じた多様な表現活動や価値観が、2020年以後の未来に向けてさらに広く波及することを目指しています。

「LOVE(愛)」とはあまりに大きなテーマです。だからこそ、私たちは、声高らかに掲げます。私たちににとって「LOVE」とは一体何でしょうか。この展覧会では、<つくること>における愛に注目しますが、「つくるもの」は「作品」にかぎらず、「未来への希望」に置き換えられるかもしれません。

このイベントでは、来たる2020年に向けて計画しているこの展覧会の「今」を、皆さんにお披露目します。出展作家16組による作品展示や、作家による公開制作、ゲストを招いたトークイベントを通して、来場者の皆さんと一緒に、LOVEに触れ、深めていきたいと考えています。

2020年は、国内外から40組以上のジャンルを超えたアーティストを迎え、約1500点の作品を展示するほか、あらゆる方が参加して楽しめる多彩なプログラムを展開します。

1年後の「LOVE LOVE LOVE LOVE 展」開催に向けて、多様な表現や創作活動を、これまで以上に身近に感じていただければ幸いです。

LET'S LOVE LOVE LOVE LOVE!

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

キュレーターズ・メッセージ

本展は、「愛することは、つくること」をひもとく展覧会です。

愛情をそそぐ相手が人であれ、ものであれ、そこに目的はありません。

あるきっかけから生まれる愛は、時とともに育まれ、変化していきます。

そのプロセスはとてもクリエイティブです。

つくることも、誰に言われることもなくはじまります。

感覚を研ぎ澄ませながらあれやこれやと続けていると

いつの間にかイメージや形ができあがっていく。

ものや景色、人に触れ、それらに応答しながら進むこのプロセスには、

言葉にならない思いが込められている。

どちらも、絶え間なく形づくられ、そうやって生まれた表現が

アートとして私たちに分かち合われる。

その時、それは、生きることが豊かなものであると教えてくれます。

うっかりしていると過ぎゆく日々に流されてしまうからこそ、

少し立ち止まって、人間ひとりひとりの感覚とそれが生み出す

表現の力強さに目を向けてみたいと思うのです。

イベントでは、愛すること、つくることを深めるトークや

来年の展覧会を先取りする作品展示のほか、

多くの皆さんが、この展覧会に参加できるプログラムについてもお伝えします。

失敗を恐れずに続いてゆく愛と創作の冒険、

またその果てに生まれる表現をぜひ、ご覧ください。

小澤慶介

LOVE LOVE LOVE LOVE 展 イベント キュレーター

LOVE LOVE LOVE LOVE 展

プライベート

期間：2019.7.14(日),15(月・祝),16(火)

時間：10:00～19:00(最終日は17:00まで) ※入場は閉場の30分前まで

入場料：無料

会場：東京ミッドタウン・ホールA (〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-2 ミッドタウンイーストB1F)

主催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 監修・キュレーション：小澤慶介(一般社団法人 アート)

会場構成：アトリエ・ワン 展覧会グラフィック：岡本 健、宮野 祐(岡本健デザイン事務所)

ラーニング企画・運営：NPO法人 エイブル・アート・ジャパン 展覧会エディトリアル：柴原聡子

展覧会ウェブサイト：萩原俊矢、井山桂一(GRANDBASE Inc.)、三浦早織

インタラクティブ作品：奥田透也(株式会社昭和機電)、萩原俊矢、小島準矢(DSCL Inc.) 映像制作：丸尾隆一



2020年夏のLOVE LOVE LOVE LOVE 展に向けた、企画や考え方、取り組みなどを、まるとシェア。作品展示やトークイベントのほか、来場者の皆さんに参加いただける、オリジナルのハートがつけれるインタラククション体験の展示、ワークショップなどを開催します。

LOVE と 出 会 う

作品展示

2020年に開催するLOVE LOVE LOVE LOVE 展の出展作家から16組の作品を展示。

表現の領域や性別、世代を超えた幅広い作家によるドローイングやオブジェ、パフォーマンス映像などをご紹介します。

公開制作 / ワークショップ

福祉施設の共同アトリエである、工房集、やまなみ工房、るんびにい美術館から、5名の作家が公開制作を行います。ワークショップには、山形からキッズドームソライが登場。たくさんの材料を自由に使って、アーティストの占部史人さん、西尾美也さんと一緒に、楽しみながら手を動かしましょう。

LOVE を 考 える

トークイベント

作家やクリエイターなど幅広い分野からゲストを迎え、本展キュレーターと愛すること、つくることについて考えます。また、本展関係者とゲストによるオープンミーティングも開催。ここで生まれたアイデアやヒントを、来夏の展覧会へつないでいきます。

登壇者

山下完和(やまなみ工房施設長)、マシュー・ビード・マーフィー(LAND Gallery キュレーター)、小野正嗣(作家・早稲田大学教授)、西 加奈子(作家)、瀬尾夏美(アーティスト)、砂連尾 理(ダンサー・振付家)、廣村正彰(グラフィックデザイナー)、岡本 健(グラフィックデザイナー)、貝島桃代(建築家)、伊敷政英(Cocktailz代表)、島影圭佑(株式会社オトンガラス代表取締役)、萩原俊矢(ウェブディレクター)ほか

LOVE と つ な がる

アクセス・アート・プログラム

さまざまな人とアートをつなぐ、アクセス・アート・プログラム。来夏に向けた取り組みを紹介、ボランティアスタッフの募集を開始するほか、活動について気軽に相談ができる窓口を開設します。



LOVE と 遊 ぶ

インタラククション体験

LOVE LOVE LOVE LOVE 展のメインビジュアルのハートは何でできてる? 今回新たに制作した体験展示で、自分の体を使った、オリジナルのハートづくりにチャレンジ!



2019 LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プ

1

井村ももか
いむら ももか

《オレンジの玉》
2014



Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

2

岡元俊雄
おかもと としお

《女の人》
2015

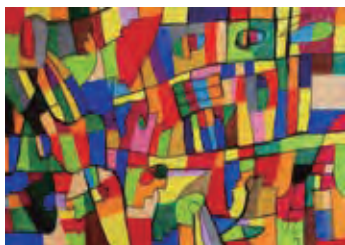


Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

3

小林 覚
こばやし さとる

《増生の宿
(花はあるじ鳥は友)》
2009



Courtesy of the artist and Lumbini Art Museum

4

清水千秋
しみず ちあき

《すっぽん祭り》
2010



Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

5

砂連尾 理
じゃれお おさむ

《とつとつダンス part.2-
愛のレッスン》
2014



撮影:森 真理子

6

杉浦 篤
すぎうら あつし

《Untitled》
1997-

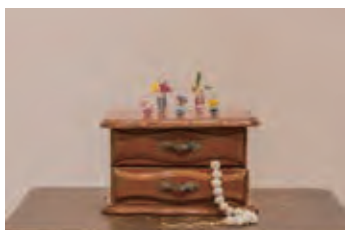


Courtesy of the artist and KOBO-SYU

7

高田
安規子・政子
たかだ
あきこ・まさこ

《Vase》
2017



8

寺口さやか
てらぐち さやか

《眼球模型》
2016



撮影:木奥恵三

イベント出展作家

9

似里 力
にさと ちから

《無題》(部分)
年不詳



Courtesy of the artist and Lumbini Art Museum

10

西尾美也
にしお よしなり

《Self Select
in Nairobi
(Self Select #65
(Nairobi))》
2009



11

納田裕加
のうだ ゆか

《のうだま》
2017



Courtesy of the artist and KOBO-SYU

12

伏木庸平
ふせぎ ようへい

《言葉はわからなくても、
この歌は私の胸を
膨らませる》(部分)
2018-2019



13

ピーター・
マクドナルド
Peter
McDonald

《Hypnotic
Rock Studio》
2008



Courtesy of the artist and GALLERY SIDE 2

14

松井智恵
まつい ちえ

《一枚さん》
2019



Courtesy of the artist and MEM

15

松本 力
まつもと ちから

《Night and Day
Watch/black, blue,
red and violet》
2014



Courtesy of the artist and TAKE NINAGAWA

16

宮川佑理子
みやがわ ゆりこ

《Untitled》
2013



Courtesy of the artist and KOBO-SYU

2020 展覧会

LOVE LOVE LOVE LOVE 展

期間：2020年7月上旬～2020年9月中旬（予定）

時間：11:00～18:00（予定）

入場料：無料

会場：お台場 船の科学館

主催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

LOVE LOVE LOVE LOVE 展

は、2020年夏、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期にあわせて、お台場の船の科学館（東京国際クルーズターミナル駅）を会場に、約2ヵ月にわたり開催する大規模な展覧会です。国内外から、およそ40組の障害のあるアーティストと現代アーティストを迎え、ドローイン



グ、オブジェ、アニメーション、パフォーマンス映像や体験型の作品など、ジャンルを超えたさまざまな表現からなる1500点以上の作品を紹介するほか、多彩なプログラムを展開します。今回のプレイベントでは、ボランティアスタッフの募集も開始。開催までの1年間、これから出会う多くの方々とともに、展覧会をつくり上げていきます。1年後の夏にご期待ください。

● **東京オリンピック・パラリンピック開催時期にあわせてお台場で開催!**

● 出展アーティストは国内外から**約40組**を予定

● 作品点数**約1500点**

● 会場は**船の科学館**。展示面積はおよそ**2,800平米**

● **船の科学館会場内にとどまらず、屋外にも作品を展示予定**

2019 → 2020

1年間、何するの？

2020年まであと1年！ 展覧会準備はもちろんのこと、公式ウェブサイトやSNS、ボランティア活動などを通して、皆さんとともにLOVE LOVE LOVE LOVE 展をつくっていきます。

企画準備

国内外のジャンルを超えた、およそ40組のアーティストによる約1500点の作品展示、建築家やデザイナーなどの専門家が手がける、アクセシビリティを考慮した環境の整備、さまざまな人がともに作品を楽しむための鑑賞プログラムなど、あらゆる人が参加可能な幅広い企画を計画します。



ボランティアスタッフ “co-love”

いよいよ今回のイベントからボランティアスタッフ、“co-love(コラボ)”の募集を開始。1年後のLOVE LOVE LOVE LOVE 展へ向けて、本展関係者とともに展覧会の楽しみ方や来場者のニーズにあわせた鑑賞サポートを考え、計画します。



WEB / SNS

公式ウェブサイトやSNSでは、LOVE LOVE LOVE LOVE 展開催までの最新情報やニュース、展覧会の見どころなどを随時発信していきます。

WEB: lovelovelove.jp Instagram: LOVE4EXHIBITION

Twitter: @LOVE4EXHIBITION ハッシュタグ: #愛することは、つくること #lovelovelove



ハートがぞくぞく

イベントに登場した、ハートのインタラクティブ体験。今後は、2020年の展覧会に向けて、いろいろな人のハートが、ぞくぞくと増えていく予定です。それらが、来夏の会場を彩ります。皆さんのハートで2020年のLOVE LOVE LOVE LOVE 展を盛り上げましょう！



あなたと展覧会をつなぐ橋。

アクセス・アート・プログラム

障害や国籍などにかかわらず、あらゆる人が展覧会を楽しめる環境を整えるとともに、展覧会へのさまざまな関わりの場をつくり、「展覧会」と「人」をつなぎます。

この「つなぎ手」となるのは、約200名のボランティアスタッフです。会場案内のほか、鑑賞プログラムや出張ワークショップなど、多くの人々がアートを通じて学び、交流する機会を支えます。ボランティアスタッフ自身が学ぶ機会として、研修や専門家によるレクチャーなども予定しています。

出張ワークショップ

学校などに出かけて
一緒に見たり、
つくったり。

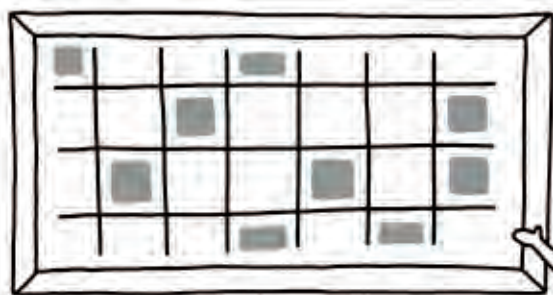


センサリーフレンドリー アワー/ルーム

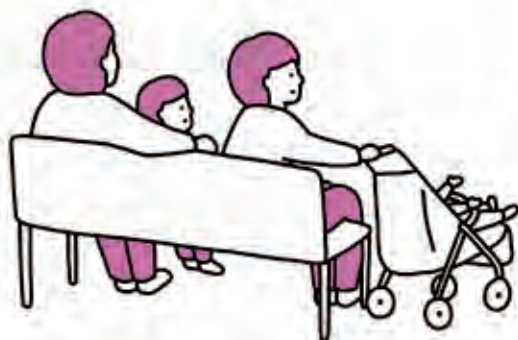
いつもの展示室よりも
音量や明るさを弱め、
音や光などの刺激が
苦手な人も楽しみやすく。



さまざまな人と楽しむ鑑賞プログラム



さまざま、だから
一緒に見ると
発見がある。



LOVE LOVE LOVE LOVE 展に

一緒に取り組むボランティアスタッフ

“co-love (コラブ)”を

募集しています。



詳しくはこちら! →



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS



誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、日本財団は障害者に関わる事業に多角的に取り組んでいます。そのひとつである「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダンドアイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は、アートを通して多様性の意義と価値を広く伝え、越境を導くことを目的とし、多くの人々が参加者となって新たな担い手や企てが生まれるよう活動しています。本プロジェクトは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に続く未来に向けて展開していきます。

2017年度実施事業 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー

2017年10月、東京のスパイラルガーデンにて開催した、当団体初の企画展です。多くの鑑賞者にひらかれた展覧会として、居心地よく過ごせる環境を目指したこの展覧会。障害のある作家や現代美術家、香取慎吾さんなど、23組による作品、アーカイブ資料や模型など約500点を展示し、19日間の会期中に約4万人が来場しました。



撮影：木奥恵三

期間：2017年10月13日(金)～10月31日(火)計19日間 会場：スパイラルガーデン(スパイラル1F)
共催：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 監修：NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

2018年度実施事業 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サークス

日本財団と渋谷区が共催で行う『SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA (ソーシャル・イノベーション・ウィーク・シブヤ)』とあわせて、2020年の展覧会へ向けた幕開けとして実施しました。7名の作家による作品展示や、来場者が写真を撮って楽しめる顔はめパネル、動物のようなユニークな展示什器の設置など、まるでサーカスかのような賑やかな空間に、新たなアートとの出会いが散りばめられました。関連プログラムでは、小説家や建築家、出展作家やボランティアスタッフが登壇し、議論を展開。世代やコミュニティ、専門性や領域を超えた多くの参加者から、今後へのヒントを得た5日間となりました。



撮影：池ノ谷栞花(ゆかい)

期間：2018年9月13日(木)～9月17日(月・祝)計5日間 会場：渋谷ヒカリエ 8/COURT 特別協力：渋谷区
後援：一般社団法人渋谷未来デザイン、一般財団法人渋谷区観光協会
監修：NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

LOVE LOVE LOVE LOVE 展

公式ウェブサイト&SNS

LOVE LOVE LOVE LOVE 展の最新情報やニュースを、ウェブサイト、メールマガジン、SNSで発信していきます。ウェブサイトからボランティアスタッフの概要もご覧いただけます。

Instagram: LOVE4EXHIBITION Twitter: @LOVE4EXHIBITION

ハッシュタグ: #愛することは、つくること #lovelovelove

lovelovelove.jp



ハートがぞくぞく!



プレイベントに登場した、ハートのインタラクティブ体験。今後は、LOVE LOVE LOVE LOVE 展に向けて、いろいろな人のハートが、ぞくぞくと増えていく予定です。それらが、来夏の会場を彩ります。皆さんのハートで2020年のLOVE LOVE LOVE LOVE 展を盛り上げましょう!

LOVE LOVE LOVE LOVE 展 2019→2020

発行：一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

東京都千代田区神田神保町1-6 神保町サンビルディング4階

Tel:03-5577-6627

監修：小澤慶介（一般社団法人 アートト）

執筆・編集：柴原聡子

アートディレクション・デザイン：岡本 健、宮野 祐（岡本健デザイン事務所）

協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

制作：一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

印刷・製本：株式会社グラフィック

©2019 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

Printed in Japan